

32	島根県立邇摩高等学校	全日制	総合学科	26～28
----	------------	-----	------	-------

平成27年度 個々の能力・才能を伸ばす特別支援教育 研究開発実施報告書（要約）

1 研究開発課題

高等学校に在籍する障がいのある生徒の自立と社会参加を図るため、特別支援学校や発達障害者支援センター等と連携して、自立活動を取り入れた特別の教育課程の編成及び一斉授業の改善工夫に関する研究開発

2 研究の概要

対象となる障がいのある生徒については、クラスや部活動の仲間とのコミュニケーション等対人関係に困難を示すことから、自立活動の「人間関係の形成」に関する指導を中心に週2コマ（年間70単位時間）を設定する。特別支援学校の協力を得ながら、個別の指導計画および個別の教育支援計画を作成し、それらに基づく指導、評価方法等について研究する。また、一斉授業において、図や資料を提示するなどの視覚化や教材・教具の工夫、課題解決のための取組等を重視するなど、支援の在り方について研究する。

3 研究の目的と仮説等

（1）研究開始時の状況と研究の目的

平成21年4月に校地内に知的障がいのある生徒を対象とした高等部が出雲養護学校邇摩分教室として設置され、年間を通して生徒同士の交流及び共同学習や教員間の特別支援教育に関する合同研修を実施している。一方、本校の生徒の中にも、中学校時に通級指導教室を利用していたり、発達障がい等の診断を受けている旨の報告を保護者から受けたりするなど、特別な支援や継続した特別支援教育を必要とする生徒の数が年々増加する傾向にあり、その対応が急がれる状況であった。

これらの状況を改善するために、自立活動を取り入れた特別の教育課程の編成及び一斉授業の改善工夫に関する研究の開発を行うこととした。

（2）研究仮説

- ① 隣接する特別支援学校分教室の自立活動担当教員が訪問指導することにより、障がいのある生徒への自立活動の指導を通して、障がいのある生徒が「人間関係の形成」および「コミュニケーション」を中心としたスキルを身につけ、授業時間や休み時間、部活動等の学校生活において、より円滑な人間関係を築くために適した行動をとることができる。
- ② 教務部を中心として、学校全体でICT機器の活用による「『見える』学びを目指して」をテーマに、一斉授業の改善工夫を行うことで、障がいのある生徒にとっても、障がいのない生徒にとっても、分かりやすい授業を行うことができる。

(3) 教育課程の特例

対象となる1年生6名については、単位数として含めない授業時間外（課外）に以下のような指導を実施した。なお、2年生4名は、自立活動（授業名「煌めく羅針盤」）を履修した。

教育課程の特例の内容	指導内容	授業時間数・単位数等
「自立活動」の指導 ※ただし、1年生は授業時間数、単位数として含めない	2・3年生の自立活動に向けての事前指導 ・障がいの認識や自己理解 ・感情コントロールやストレス対処のスキルを習得する	1年次：課外 ※実施時間数 (各生徒3回程度)
「自立活動」の指導 (授業名：煌めく羅針盤)	LST（ライフスキルトレーニング）の実施 ・自己や他者を理解する ・効果的なコミュニケーションのスキルを習得する	2年次：70時間 (2単位)
「自立活動」の指導 (授業名：煌めく羅針盤)	キャリアトレーニングの実施 ・卒業後の社会生活に必要な知識やスキルを習得する	3年次：70時間 (2単位) ※H26年度入学生から履修のため、H28年度より実施

(4) 個々の能力・才能を伸ばす指導（現行指導要領における一斉指導の改善工夫等）

一年次に実施した指導の現状や生徒の実態把握に基づき、二年次は、すべての生徒が「わかる」という実感をもてるように、ユニバーサルデザインを意識した授業実践による一斉指導の改善工夫に取り組んだ。

- ①ユニバーサルデザインを取り入れた授業に関する先進校視察や研修会の実施
- ②ICT機器の活用による一斉授業の改善工夫
- ③教室環境や学習ルールの共通理解と改善や実施

(5) 研究成果の評価方法

- ① 行動分析調査
対象生徒の行動的特徴を授業および休憩時間、部活動等において、関係のある全ての教職員が入力できるシステムを利用する。
- ② アンケート調査
対象生徒およびその保護者が、学校生活や家庭生活において、研究仮説における評価をアンケート方式で行う。
- ③ 面談
担任が対象生徒およびその保護者に対して面談を行い、具体的な様子や変容を聞き取ることで評価し、今後の指導についての改善を図る。

④ 運営指導委員会での評価

行動分析調査とアンケート調査、面談の結果をまとめ、生徒一人一人の目標の達成度と学校全体としての達成度を運営指導委員会で評価する。

4 研究の経過等

(1) 教育課程の内容

別紙①のとおり

(2) 全課程の修了認定の要件

別紙①のとおり

(3) 研究の経過

	実施内容等		
	概要	前期	後期
第1年次 (26年度)	教育課程の特例に向けた準備、一部試行的実施	<ul style="list-style-type: none"> ○運営指導委員会の委員選出 ★運営指導委員会の開催（教育課程編成等） ★事業推進会議の開催（月1回） ●連絡協議会への参加 ●校内研修会の開催（事業の周知、一斉授業の在り方等） ★邇摩高校と出雲養護学校の協議 □生徒及び保護者への説明（1年生全体） （本事業・自立活動の実施について） 	<ul style="list-style-type: none"> ●研究協議会への参加 ★事業推進会議の開催（月1回） □一斉授業の改善工夫に向けた準備 ●自立活動担当教員の研修 ●先進校視察 □1年生対象生徒及びその保護者への説明 （自立活動の実施について） □放課後を利用した、自立活動試行的実施 ★運営指導委員会の開催 （一年次の課題と改善） ○一年次評価とまとめ（報告書作成） ○二年次計画作成
第2年次 (27年度)	教育課程の特例の適用、一斉授業の改善の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○自立活動担当教員の兼務発令 ★事業推進会議の開催（月1回） ●校内研修会の開催 （事業二年次の実施について） ●自立活動担当教員等の研修 □2年生対象生徒及び保護者への説明 □自立活動の実施及び一斉授業の改善工夫 □生徒及び保護者への説明（1年生全体） （本事業・自立活動の実施について） □2年生対象生徒保護者との面談 □前期評価 	<ul style="list-style-type: none"> ★運営指導委員会の開催（前期の振り返り） ★事業推進会議の開催（月1回） □自立活動の実施及び一斉授業の改善工夫 ●先進校視察 □1年生対象生徒及びその保護者への説明 （自立活動の実施について） □放課後を利用した、自立活動施行的実施 □保護者との面談（2年生） ★運営指導委員会の開催（二年次の課題と改善） ○後期評価 ○二年次評価と三年次計画の作成 ○二年次まとめと報告書作成

<p>第3年次 (28年度)</p>	<p>2年目の実施結果を踏まえた改善実施</p>	<p>○自立活動担当教員の兼務発令 ★事業推進会議の開催（月1回） ●校内研修会の開催 （事業三年次の実施について） ●自立活動担当教員等の研修 □2・3年生対象生徒及び保護者への説明 □自立活動の実施及び一斉授業の改善工夫 □前期評価 □生徒及び保護者への説明（1年生全体） （本事業・自立活動の実施について） □2・3年生対象保護者との面談 ●先進校視察</p>	<p>★運営指導委員会の開催（前期の振り返り） ★事業推進会議の開催（月1回） □自立活動の実施及び一斉授業の改善工夫 □1年生対象生徒及びその保護者への説明 （自立活動の実施について） □放課後を利用した、自立活動施行的実施 □保護者との面談（2・3年生） ★運営指導委員会の開催 （三年次の成果及び課題のまとめ） □後期評価 ○本事業の成果とまとめ ○報告書作成と事業報告</p>
------------------------	--------------------------	---	--

（4）評価に関する取組

評価計画		
<p>第1年次 (26年度)</p>	<p>ア 教育課程の編成</p>	<p>・自立活動を取り入れた、教育課程を編成することができたか</p>
	<p>イ 生徒及び保護者への説明</p>	<p>・自立活動について、対象生徒および保護者に説明し、理解を得ることができたか</p>
	<p>ウ 自立活動の試行的実施</p>	<p>・自立活動を通常の授業に加えて試行的に実施し、成果及び課題を見出すことができたか</p>
<p>第2年次 (27年度)</p>	<p>ア 行動分析調査</p>	<p>・対象生徒の行動について、関係のある教職員が記入し、分析することができたか（随時、学期末に分析）</p>
	<p>イ アンケート調査</p>	<p>・対象生徒および保護者に対して、研究仮説に基づくアンケートを実施することができたか（年度末に実施） ・教員に対して、一斉授業の改善工夫について取組むことができたか</p>
	<p>ウ 面談</p>	<p>・対象生徒及び保護者に対して面談を行い、成果及び課題を共有し、今後の指導について改善を図ることができたか（年度末に実施）</p>
	<p>エ 総合評価</p>	<p>・ア～ウについて関係者が総合的に評価し、成果及び課題を共有し、今後の指導について改善を図ることができたか（年度末に実施）</p>
<p>第3年次 (28年度)</p>	<p>ア 行動分析調査</p>	<p>・対象生徒の行動について、関係する教職員が記入し、分析することができたか（随時、学期末に分析）</p>
	<p>イ アンケート調査</p>	<p>・対象生徒及び保護者に対して、研究仮説に基づくアンケートを実施することができたか（年度末に実施） ・教員に対して、一斉授業の改善工夫について取組むことができたか</p>
	<p>ウ 面談</p>	<p>・対象生徒及び保護者に対して面談を行い、成果及び今後の学校生活、社会生活を送る上での課題を共有することができたか（年度末に実施）</p>
	<p>エ 総合評価</p>	<p>・ア～ウについて関係者が総合的に評価し、研究仮説を検証することができたか（年度末に実施） ・今後の高等学校における特別支援教育の在り方（体制整備等）について考えることができたか（年度末に実施）</p>

5 研究開発の成果

(1) 実施による効果

①生徒への効果

(ア) 自立活動の実施対象生徒

2年生については、対象生徒A～Dに週2単位時間、1年生については、対象生徒E～Jに課外の放課後に1名3回ずつ自立活動の指導を実施し、指導時間毎に振り返りのワークシート記入を行った。1、2年生合わせて10名と自立活動担当教員の記録から、以下のような様子が見られた。

【2年生】

生徒A：本生徒の目標は、「自分自身を知り、周囲とのかかわりの中で将来の生き方について考える」「自分の『できること』『できないこと』を知る」である。元々まじめで一生懸命だが、学習や周囲の状況にスムーズについていきにくいところがあった。発達障害の診断があり定期的に病院に通っている。自立活動を通して、自分の得意や不得意について考えたり、将来の職業を考えたりするにつれて、漠然と感じていた不安が少し薄れてきている印象がある。以前より笑顔がよく見られるようになってきて、教員へ話しかけることも増えてきている。同様に、他の生徒たちに対しても体育祭練習や文化祭準備などにおいて、楽しく一緒に話をしたり作業をしたりする姿が見られた。

生徒B：本生徒の目標は、「将来を考え、社会や職場の人とのコミュニケーションの必要性を知る」「発音や声の大きさを意識して話す」「困った時、自分から周囲に依頼することができる」である。中学校段階では、聴覚障がい特別支援学校中学部に通い、同級生が2名という環境で育っていた。高校で福祉を勉強したいという思いがあり、知り合いが一人もない本校に入学してきた。自分のことばが人にどう伝わっているのか、自信が持てない部分があるので、自分からまわりの生徒に話しかけることはほとんどなかった。自立活動と一緒に受ける他の生徒とは少しずつ話ができるようになってきており、わからないことを聞くこともできるようになった。学習面では、どの教科もたいへんよくがんばっており良い成績をあげている。委員会活動や清掃をはじめとし、自分に与えられた仕事は責任をもって行うことができる。

生徒C：本生徒の短期目標は「場面の状況を理解し、話す相手の方を見る、話を聞く態度など人との関わり方を知る」「自分で、具体的に進路設計について考えていく」である。本生徒には身体的な障がいがあり、定期的なケアを自分で行う必要があるが、入学以来、授業や行事の予定を考えながら自分に必要なケアを行うことについて、考える力をつけている。また、できるだけ授業に遅れないよう適切なケアを行うことができるようになってきている。学習面では特に困っている様子はない。アニメやカードゲームなどが趣味で幼い面が見られ、そのことを話すと止まらないこともあるのだが、少しずつ周囲の状況を理解しながら話すことができるようになってきている。また、仲のよい友人が数人いて、文化祭のステージで歌と踊りを披露するなど、自分も楽しみながら周囲も楽しませたいというサービス精神と積極性が育っている。

生徒D：本生徒の目標は、「自分の良さを知り、成功体験を重ねる中で自信や意欲を高める」「自分を肯定的に受けとめ、人とのかかわり方を知る」である。元々たいへんおとなしい性格で、友人たちとうまく関わるのが難しい生徒であったが、徐々に、特定の友人とではあるが、楽しそうに会話する姿が見られるようになってきた。学習は全般的に苦手だが、毎週朝の校内漢字テストへの取り組みはずばらしく、丁寧に練習して満点をとることも多い。苦手の英語についても、ノートをきちんととったり何度も書く練習などをして、点数を伸ばしてきている。担当の教員からも目をかけてもらいほめて認められることで自信が生まれふだんの生活でもいい影響が出てきている。地元スーパーで実習したインターンシップでは、従業員の方の仕事の説明をしっかりと聞き、与えられた仕事を最後までやり遂げることができた。自分の将来を考える上でいい機会になった。

【1年生】

生徒E：教室での様子とは異なり、表情豊かに自分の思いをたくさん述べている。担当教員との人間関係も築きつつあり、次回の自立活動を楽しみにしている様子で、家庭においても話題にしている。趣味について多く語り、自己肯定観につながっている。生活時間の使い方について改善に取り組もうとしている。

生徒F：自分の思いを少しずつ述べるようになり、コミュニケーションの緊張が解けていく様子がうかがえる。数学のつまずきについて、学習方法のアドバイスを受けてそれを実行し、成績も少し上昇した。固定された学び方から広がりが見られるようになった。

生徒G：人間不信で、自分についても「勉強ができない」「周囲から馬鹿にされている」と否定的な発言が多い生徒である。趣味の話題になると、多弁になり表情も生き生きしている。特にこれを取り上げて能力を認められることで自信につながっている。

生徒H：自分に注目されて質問されることに戸惑いを感じ抵抗感もあったようだが、褒められたり、認められたりする言葉がけに、しだいに笑顔が出て会話も増えている。担当教員との人間関係も築きつつあり、小中学校時代の友人関係やその時の気持ちについても思い出しながら説明できるようになった。高校での自分は「周囲からは見えていない」と発言し、人間関係の希薄さがうかがえる。

生徒I：高校生活に前向きに取り組んでいる自分の姿に喜びや充実感を感じている。友人ができたことも大変喜び、過去の自分からはあり得ない状態だと振り返り、心情を語っている。入学後3か月間は学校生活にストレスを感じていたことなど、振り返ることができた。また、人間関係のストレスが蓄積したときの自分の言動パターンについて反省し、発散方法についても前向きに考えようとしている。

生徒J：人間関係づくりについて「同級生は苦手だが、先輩や先生とはうまく会話できる」「同級生の態度にビビってしまい、抵抗できない弱い自分が嫌い。その部分を変えたい」等、苦手な部分について認め、自分を変えたいという前向きな言葉が聞かれた。

(生徒の感想から)

【2年生】

- ・4人で一緒に自立活動をして、いつもより楽しく感じた。もっとみんなと一緒に自立活動ができるといいと思いました。
- ・今日は目標やがんばりたいことを考えました。その目標が達成できるようにもっと努力したいなと思いました。
- ・自ら行動することが前よりも多くなった。自分が少し変わることができた気がする。
- ・相手と話すとき、どんなことに気をつけなければいけないのか、距離はどれくらいがいいのかなどを考えることができたので、今後実践できたらいいなと思いました。
- ・みんなとゲームをして、楽しかったしたくさん笑うことができた。
- ・自分の得意なことや趣味を見つけられるようにいろいろなことに挑戦したい。
- ・他の人とあいさつしたり、話したりできるようになった。
- ・これから自分に必要になることが、まだたくさんあると思うと、不安に思うけどがんばって生活していきたいです。
- ・スケジュール管理を勉強したので、これから私も手帳を使ってみたいと思った。

【1年生】

- ・授業参加を先生から薦められた時は不安だった。大変そう。面倒くさい。
- ・抵抗感なく、やりたいと思った。興味はあった。親からもやってみたらと言われた。
- ・放課後実施で良かった。(授業を抜ける抵抗感がない。授業の遅れもない。)
- ・自分の考えや思いを話す(伝える)事ができた。話しまくったと自分でも思う。
- ・これまでで一番自分を振り返ることができた。それまでは(嫌な思い出、弱かった自分を)思い出したくもなかったし、考えたくなかった。
- ・自分の弱いところ(直すところ)がわかった。悩みを話すことができた。
例) 人との付き合い方が苦手で、特に同年代とは壁を作ってしまう。周囲の反応が不安で、学級日誌も何を書いていいかわからない。からかわれても嫌と言えない
- ・来年度の自立活動も個別が良い。グループ活動は嫌だ。まだちょっと無理。
- ・先生が褒めようとするのが嫌だった。褒められるほどのことではないし、認めたくない。自分にいい所なんてない。
- ・自分の良い所や伸ばす所がわかった。自信がついた。
- ・将来(未来)の自分をイメージできた。
- ・考え方は変わったが、行動までは至らない。
例) 一人でいる事について、これでいいかと思ったり、もう少しかかわった方がいいのかなとも思ったりする。喋れる相手はいるが、会話のきっかけがわからない。
- ・「煌めく羅針盤」授業を来年の1年生にも薦めたい。特に悩んでいる人。

(教員の記録から)

- ・2年生全員が10月に行った3日間のインターンシップに向けて、さまざまな準備や心構えなどを自立活動で確認することで、落ち着いてインターンシップをやり遂げることができた。その後の振り返りでも、将来の職業についての考えが少しはっきりしてきたように感じられた。
- ・自立活動担当教員からは、「自分が知りたいことや思っていることを話す積極性が出てきた。」「自分と向き合うことができるようになってきた。」「毎回の授業に楽しく前向きに取り組んでいる。」など生徒の変化や実施の効果についての報告があった。

(イ) 対象以外の生徒

- ・ これまでも、隣接する特別支援学校分教室の高等部生徒との交流及び共同学習を通して、特別支援教育への理解は進んでいたが、煌めく羅針盤の授業を理解し、本校の中での支援が必要な生徒たちとも、共に学習や行事に取り組むことで集団の一員として認めている。

②教員への効果

- ・ 各種会議や研修、職員室便り「煌めく羅針盤」の発行等を重ねることで、発達障がい、自立活動、通級による指導等についての基本的な考え方を確認し、特別な支援を必要とする生徒への理解をより深めることができた。また、特別支援学校の自立活動担当教員の関わりにより、自立活動の目標設定の仕方や具体的な指導内容や授業の進め方等について、まだ十分に理解できていない教員が学ぶことができた。
- ・ 学校全体で特別支援教育に対する意識はより高まり、校内体制整備も進んだ。カウンセリング委員会を定期的に行うことで、生徒の実態把握や連携をよりスムーズに行い、特別な支援を必要とする生徒に対して統一感のある指導や支援を行った。
- ・ 学習上の困難さを抱えている生徒への支援、満足感を得ている生徒への更なる向上に向けて、各教科会、教科主任会で指導上のルールを作成し、教職員と生徒の共通理解のもと授業改善に継続的に努めた。
- ・ 一斉授業の改善の工夫に向けて、実際に各教科でICT機器の活用による実践を始めた。

③保護者等への効果

(ア) 保護者

- ・ 自立活動対象生徒の保護者は、本校の取り組みをよく理解をしてくださっている。生徒の困っている状況の把握や自立活動の目標設定において、生徒のこれまでの様子や受けてきた教育的支援などについて聞くことができたり、現在の家庭での様子を聞くために保護者と学校側で話し合ったりする場を定期的に持つことは有効であった。
- ・ 全体の保護者へ自立活動について説明をした際に、対象以外の生徒の保護者からも関心を持って質問されることがあった。

(イ) その他（地域の理解等）

- ・ 近隣の中学校や特別支援学校から、自立活動についての問い合わせが多くなってきている。また、本事業の実施について、県内外の大学や高校の先生や学生からの学校訪問も増えている。

(2) 実施上の問題点と今後の課題

- ・ 的確な実態把握や有効な自立活動を担当する専門性のある教員の確保。
- ・ 自立活動担当教員や担任、保護者、関係機関等との連携と特別支援教育コーディネーターが十分活動できる校内体制づくり。
- ・ 高等学校卒業後の社会自立を見据えた、キャリアトレーニング等を取り入れた自立活動の指導内容。
- ・ 高等学校卒業後の就職先や進学先、関係機関等への支援の引継。
- ・ 進路決定に必要な就職応募用紙や調査書への自立活動単位修得記載方法等の未確定な部分と進路保障における社会的な理解。

※ 島根県では、「障害」を「障がい」と表記。